

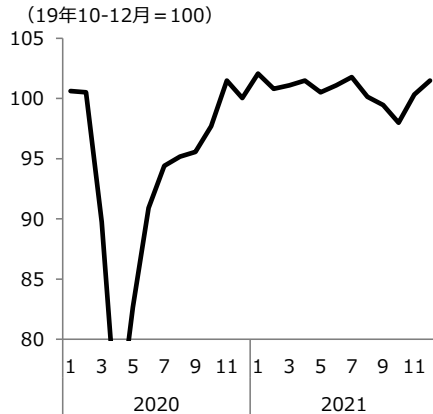
欧州

鉱工業生産（2021年12月）

生産回復も、原材料・人手不足の制約が強まる

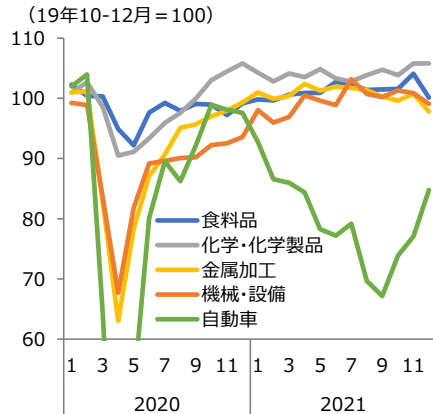
政策・経済センター
綿谷謙吾
03-6858-2717

1 鉱工業生産（ユーロ圏）



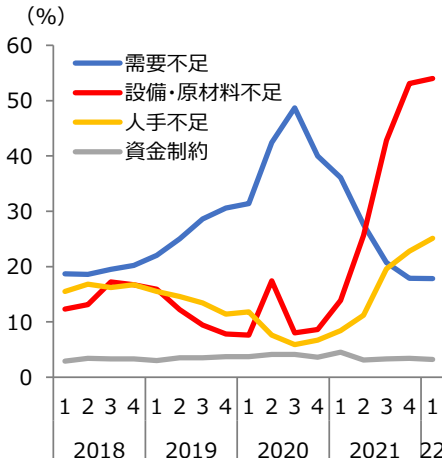
出所：Eurostatより三菱総合研究所作成

2 鉱工業生産（ユーロ圏、主要業種）



出所：Eurostatより三菱総合研究所作成

3 生産の制約要因（ユーロ圏）



注：製造業を対象にした調査。生産の制約要因として「設備・原材料不足」などの各項目をあげた割合。
出所：Eurostatより三菱総合研究所作成

4 受注残高（ユーロ圏）



出所：Eurostatより三菱総合研究所作成

評価ポイント

今回の結果

- 21年12月のユーロ圏の鉱工業生産は前月比+1.2%と2カ月連続の増加（図表1）。四半期（21年10-12月）では、前期比▲0.5%の減少となった。
- 業種別では、供給制約の影響から大幅に落ち込んでいた自動車生産の回復（前月比+10.0%）が継続（図表2）。ただし、コロナ危機前（19年10-12月）の水準を約16%下回っており、供給制約の影響が残っている。
- 主要国では、自動車生産の回復を背景にドイツは前月比+1.1%と3カ月連続の増加。一方、フランス（同▲0.2%）、イタリア（同▲1.0%）、スペイン（同▲0.6%）は減少した。

基調判断と今後の流れ

- ユーロ圏の生産は、均してみると横ばい圏内で推移している。
- 域内外の段階的な経済活動再開を受け、需要は回復しつつあるが、半導体や原材料などの供給制約が生産活動回復の重しとなっている。ユーロ圏の製造業を対象とした調査によると、21年入り以降生産の制約要因として「設備・原材料不足」をあげる企業の割合が高まっている（図表3）。
- 先行きのユーロ圏の生産は緩やかな回復を見込む。半導体の供給制約の解消には時間を要するとみるが、その他の原材料などの供給制約は物流ひっ迫の緩和などから、段階的に解消に向かうとみる。受注残高は平時より多く（図表4）、需要はあることから、供給制約が解消するにつれ、生産は回復していくだろう。
- ただし、①人手不足感の高まり、②ウクライナ情勢緊迫化を背景とした原油・天然ガスなどのエネルギー価格上昇・供給制約には注意が必要だ。人手不足感の製造業だけでなく、感染拡大で経済活動が抑制されているサービス業でも高まっている。21年末からの感染拡大はピークアウトしはじめており、経済活動の正常化が進むにつれ、労働需給のひっ迫が生産の抑制要因となる可能性がある。